プロジェクト報告

「国際経済学の現代的課題・アプローチに関するセミナー」に関する報告

鶴　田　芳　貴
山　下　直　輝
武　田　朝　美

1．本セミナーの概要

現在の経済学における研究対象・研究手法は多様化し，その変化も速い．そのような多様化や変化のペースに対応するため，新しい研究領域を開拓し，研究手法を開発・利用する学内外の研究者によるセミナーを2023年度に引き続き2024年度も 8 回にわたり実施した．以下にセミナー各回での報告概要についてまとめる．

2．セミナー実施の記録とその内容

【第 1 回セミナー】

実施日：2024年 6 月19日

報告者：笹原 彰 氏（慶應義塾大学　准教授）

報告タイトル：Global Value Chains, Domestic Value Chains, and Comparative Advantage

報告概要と議論の内容：本報告では，日本の地域間産業連関表（1960–2005年）を用いた研究が紹介された．本研究は，グローバル・バリューチェーン（GVCs）への統合が国内バリューチェーン（DVCs）および国内の比較優位に与える影響を検証している．

主な内容

- GVCs への統合が進むと，多くの製造業で DVCs が縮小したが，輸送機器産業で

はGVCsとDVCsの双方が拡大した.

- 輸送機器産業ではGVCsとDVCsの双方が拡大が比較優位の強化につながったが，他の製造業における同様の変化は，比較優位を弱体化させることになった.
- 理論モデルの分析から，国際アウトソーシングコストの低下と輸送機器部門の中間財生産性向上が要因であることが示された.

【第2回セミナー】

実施日：2024年7月10日

報告者：田中 智章 氏（JICA）

報告タイトル：Extensive and Intensive Margins of Informal Workers' Public Pension Demand：Evidence from a Mongolian Pension Reform

報告概要と議論の内容：本報告では，近年の年金制度拡大とインフォーマル労働者の低い加入率に関する研究が紹介された．特にモンゴルで実施された大規模政策を事例に分析が行われた.

主な内容

- モンゴルで欠損拠出を補填し，拠出要件を緩和する政策が導入された.
- 行政データを用いた回帰屈折デザインにより，公的年金需要の価格弾力性を推計.
- 若年層には小さな給付が参加促進に有効.
- 一部の既存参加者では大きな給付が追加拠出を抑制.
- 男女で影響に差があり，主に退職年齢の違いが要因.

【第3回セミナー】

実施日：2024年10月24日（木）

報告者：手島 健介氏（同志社大学）

報告タイトル："From Samurai to Skyscrapers： How Transaction Costs Shape Tokyo"（joint with Junichi Yamasaki and Kentaro Nakajima）

報告概要と議論の内容：都市土地利用における区画の分割・統合コスト（取引費用）の持続的影響を，東京の19世紀から21世紀までの土地データを用いて分析した研究が紹介された.

主な内容

- 1868年の大名屋敷の敷地の放出という外生的ショックを利用し，初期の区画状態がその後の都市開発に与える影響を検証.
- 大名屋敷地であった地域は現在でも区画が大きく，その結果として高層ビル建設，

地価上昇，企業の労働生産性向上が確認された.

- こうした効果は主に都心部で顕著であり，区画統合コストが高いことを示唆.
- 区画規模と地価の正の関係は高層ビル時代以降に強まり，最適区画規模が拡大したことが示された.

【第 4 回セミナー】

実施日：2024年11月 6 日

報告者：花木伸行氏（大阪大学　教授）

報告タイトル：Valuing Algorithms Over Experts：Evidence from a Stock Price Forecasting Experiment（Joint work with Bolin Mao, Tiffany Tsz Kwan Tse, Wenxin Zhou）

報告概要と議論の内容：本報告では，株価予測に関する助言（アルゴリズム，専門家，同じ大学の学生）に対する参加者の支払意思額と行動を比較した研究が紹介された.

主な内容

- 参加者はアルゴリズムによる助言を専門家と同程度に重視し，同じ大学の同級生よりも高く評価.
- アルゴリズムの性能が同等または劣る場合でも「信頼できる」と認識される傾向（アルゴリズム信頼）が確認された．その傾向は特に学生層で顕著であった.
- ただし，この傾向により助言に過大な対価を支払い，最終的な成果（ペイオフ）が低下した.

【第 5 回セミナー】

実施日：2024年11月13日

報告者：庄司 匡宏 氏（東京大学 教授）

報告タイトル：Cost and Demand Effects of Legal Adult Prostitution on Child Sex Trafficking （Joint work with Naoshi Doi（Otaru University of Commerce），Masahiro Shoji（University of Tokyo），Kenmei Tsubota（Toyo University），and Md. Sanaul Haque Mondal（East West University））

報告概要と議論の内容：本報告では，成人売春の合法化が児童売春・人身取引に与える影響を，全国調査データと合法風俗店の立地差を活用して分析した研究が紹介された.

主な内容

- 成人売春の合法化は児童の人身取引被害者と自発的な児童売春の双方を増加させる傾向を確認.
- 反実仮想シミュレーションの結果：
- 風俗店を閉鎖すると，人身取引の被害者が13.5%，自発的児童売春が2.7%減少. ただし合法的な成人労働者の就業機会が失われる.
- 風俗店での人身被害者に関する厳格なスクリーニングを行うと，被害者は13.7%減少し，合法的な性労働者は必ず排除されないが，自発的児童売春は2.7%増加.

【第 6 回セミナー】

実施日：2024年11月27日

報告者：中島 賢太郎 氏（一橋大学 教授）

報告タイトル：Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities

報告概要と議論の内容：本報告では，経済分析における地域的・季節的に細かな経済活動の測定手法として，衛星画像から得られる車両密度データを活用する研究が紹介された.

主な内容

- 昼間の衛星画像から車両密度を算出し，人や物の流れを含む地域経済活動を測定. 検証の結果，車両密度は地域経済水準の有効な代理指標となることを確認.
- 応用事例として，フィリピンの新国際空港ターミナル開設の経済効果を分析.
- 分析の結果，開設効果は地域的・季節的に異なり，従来のデータでは把握できない影響が明らかになった.

【第 7 回セミナー】

実施日：2024年12月 4 日

報告者：ZHANG Hongyong 氏（RIETI）

報告タイトル：Industrial Subsidies along Domestic Value Chains and their Impacts on China's Exports

報告概要と議論の内容：本報告では，中国企業に対する産業補助金が輸出パフォーマンスに与える影響を，企業レベルの補助金データと省間産業連関表を用いて分析した研究が紹介された.

主な内容

- 直接補助金は中国企業の輸出参加・輸出量を増加させることに加え，投資や R&D 支出とも正の関係.
- 上流産業（特に一次上流）からの間接的な補助金は，直接補助金以上に輸出促進効果が大きい.
- 直接補助金により国内企業・外資系企業とも恩恵を受けるが，間接補助金の効果は所有形態により異なる.
- 両補助金は輸出価格上昇と品質向上を引き起こすが，品質調整後の価格を低下させる.
- 品質向上は，直接補助金による投資・R&D 促進，および間接補助金による中間投入材を通じて実現.

【第 8 回セミナー】

実施日：2024年 1 月15日

報告者：熊谷 元宏 氏（The Australian National University, Lecturer）

報告タイトル：Overkill, Extinction, and the Neolithic Revolution

報告概要と議論の内容：本報告では，農耕の起源と拡大における生物地理学的要因を検討した研究が紹介された．特に大型哺乳類の絶滅と農耕への移行との関係が分析された.

主な内容

- 一部の哺乳類は狩猟圧に脆弱で絶滅し，人類の狩猟資源が減少．それが農耕への転換を促したとの仮説を検証.
- 複数のデータセットを用い，古代気候要因をコントロールし，絶滅リスクを外生的要因として利用.
- 大型草食動物の絶滅が新石器革命の主要要因であることを実証.